



エキサイトよこはま22(横浜駅周辺大改造計画)

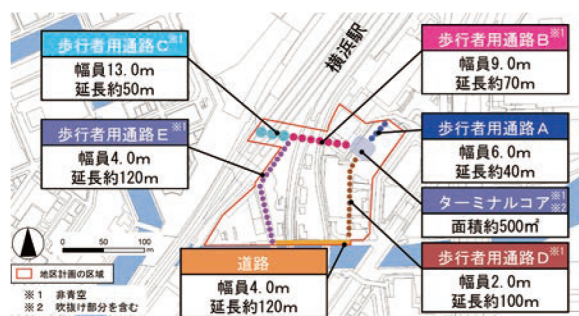
国際化への対応・環境問題・駅としての魅力向上・災害時の安全性確保などの課題を解消し、「国際都市の玄関口としてふさわしいまちづくり」を進めるための指針となる計画です。

横浜駅周辺の位置づけ「国際都市横浜の玄関口として 国際競争力のあるまち」

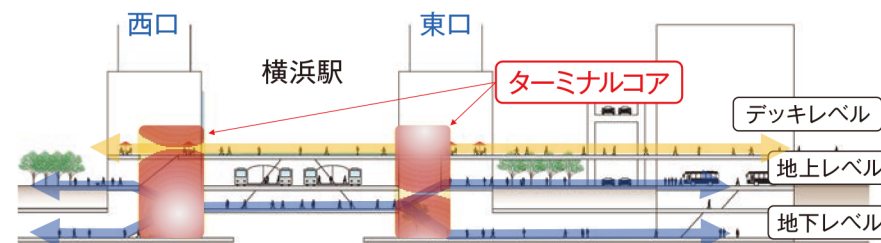
- 国際化した羽田空港などにつながる、アジアを中心とした国際交流拠点
- 首都圏西部の要衝・日本第二位の人口を擁する都市横浜市の中核拠点
- 首都圏有数の乗降客数を誇るターミナル駅

横浜駅周辺が取組むまちの課題をもって横浜駅周辺が、世界の人々の交流拠点となり、国際都市の玄関口にふさわしい魅力に満ちた、安全で誇れるまち、となるための新たなまちづくりを進めています。

エキサイト横浜22「横浜駅みなみ東口地区地区計画」



将来の歩行者動線(概念図)



地区別まちづくりガイドライン 各地区に国際都市の玄関口を形成する拠点にふさわしい骨格を形成します。



参照:「エキサイトよこはま22」概要版 / 発行:横浜市都市整備局都心再生部都心再生課

センターゾーン

横浜の玄関口にふさわしい交通結節空間、歩行者目線に配慮した来街者にとって快適な歩行者空間・親水空間の形成を進めます。

- ゲート性の創出
- 個性を尊重しつつもまとまり感のある建物群像
- エンタランス性のある駅前広場
- 多様なシーンが展開しドラマ性の感じられる都市景観の形成
- 開放感やにぎわいがあるターミナルコア
- 都市活力の演出
- ゆとりやにぎわいのある歩行者空間
- ハマ風を感じられる憩いの場
- 水辺を活かした夜間景観
- うらおいの体感

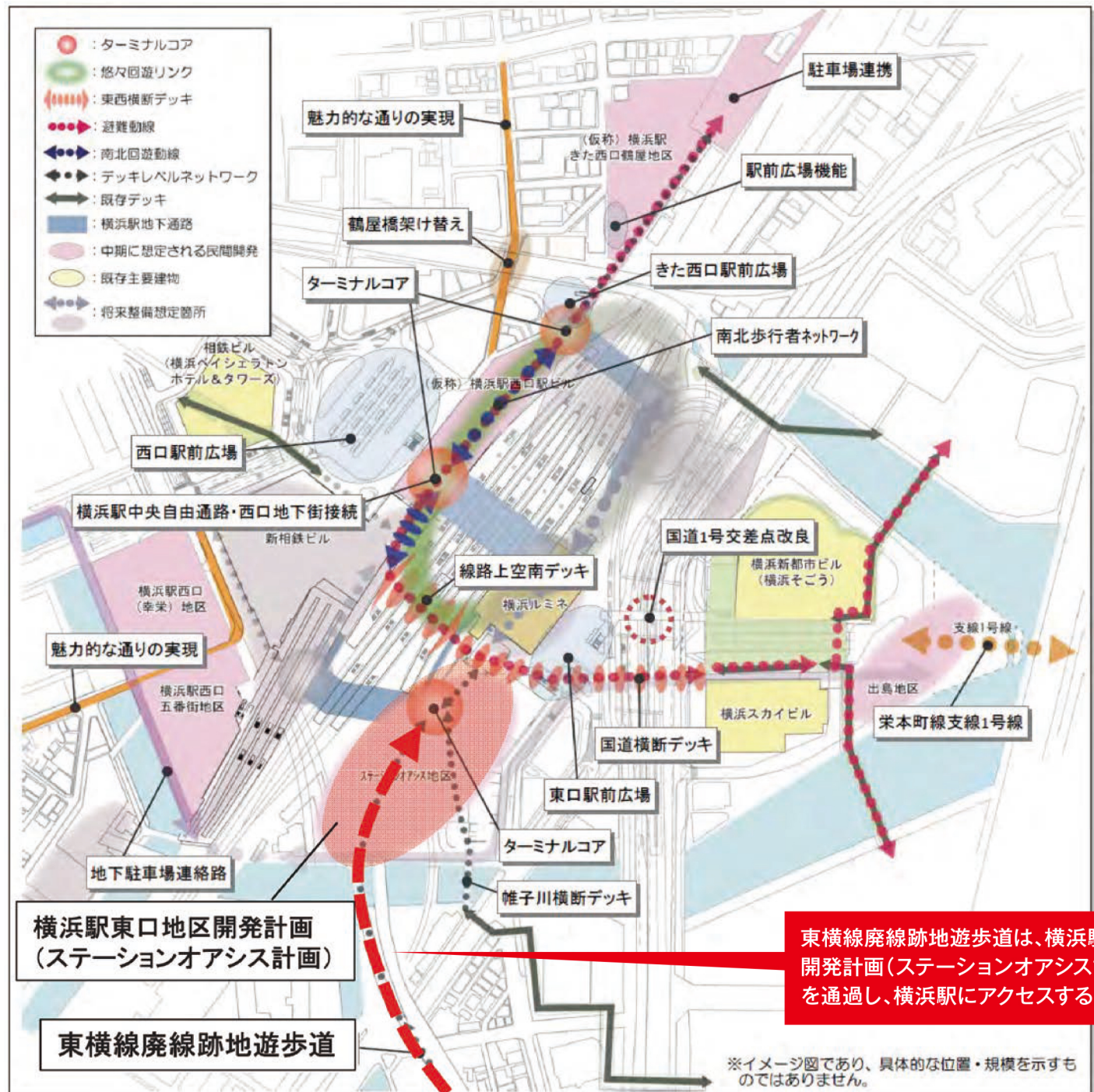
横浜駅きた西口鶴屋地区 第一種市街地再開発事業

当地区では全国初の住宅容積率の緩和を活用した国家戦略住宅整備事業としてグローバル企業の就業者等の生活支援に必要な機能を併設した住宅を整備します。



用途:住宅・ホテル・店舗・商業施設・多言語対応のメディカルモール・多言語対応コンシェルジュサービス・子育て支援施設など
延床面積:約7,700㎡ 階数:地上44階 高さ:約180m 完成予定時期:2021年
※参照:都市整備局都心再生課資料より

地区別まちづくりガイドライン



横浜駅東口地区開発計画(ステーションオアシス計画)

東横線廃線跡地遊歩道

東横線廃線跡地遊歩道は、横浜駅東口地区開発計画(ステーションオアシス計画)内部を通過し、横浜駅にアクセスする。

※イメージ図であり、具体的な位置・規模を示すものではありません。